

郷土にまつわる歴史講座
(協力) 明治文庫の会

中世の讃岐武士 —三好支配から本能寺 の変まで—

歴史ライター

講師 村井眞明氏



日時 令和8年5月17日(日)

午後1時30分~3時

場所 マルタス1階多目的ホール

定員 60人 ※予約不要・先着順

料金 無料

問合せ 丸亀市立中央図書館

TEL0877-22-3746



戦国時代の幕開けとなる応仁の乱では、多くの讃岐武士が京へ上り、東軍（細川勝元軍）に属して戦った。その主力は細川四天王と呼ばれた香川氏（現多度津町）、奈良氏（現宇多津町）、香西氏（現高松市）、安富氏（現さぬき市）だった。

その後、讃岐は、阿波三好氏の支配下に入り、続いて土佐長曾我部の侵攻を受ける。なぜ讃岐は阿波三好氏の軍門に下ったのか、長曾我部軍はどのように讃岐に入ってきたのか。今回は本能寺の変が起きた頃までを説明する。

なお、本講座は3回シリーズです。

3回目 「中世の讃岐武士 -長曾我部氏の四国統一から生駒の讃岐入りまで-」

講演者プロフィール

昭和26年、多度津町生まれ
丸亀高校・京都大学法学部卒業

元香川県観光交流局長

著書：「栗林公園と歴代藩主」、「物語 中世の讃岐武士」